

地域連携と教科横断による授業で目指す 探究力・主体性・協調性の育成

熱海高校 (静岡県立)

生徒の自己肯定感を基盤とした探究力・主体性・協調性の育成を目指して
地域との協働による課題探究を推進し、資質・能力の評価開発にも取り組んできた熱海高校。
教科横断授業への挑戦も始まり、新しいカリキュラム作りに向けて進化を続けています。

取材・文／藤崎雅子

実践のKeyword

🔍 総合的な探究の時間 🔍 地域との協働 🔍 資質・能力の評価開発 🔍 教科横断授業
🔍 シラバスの工夫 🔍 新教育課程の開発

自己肯定感の基盤のうえに 地域に貢献できる人材を育成

海を見晴らす高台に立つ熱海高校。熱海市で唯一の高校として、これからの地域を担う人材の育成が期待されている学校だ。普通科の中に「福祉」「観光ビジネス」「進学」の3コースを設置し、2年次からコース別カリキュラムを展開。約半数が卒業後にすぐ仕事に就き、福祉や商業を学んだ経験を活かして就職する者も多い。

地域の少子高齢化に伴い学校規模は縮小傾向にあるが、「規模の小ささを活かして丁寧な指導を行っている、温かみのある学校」と石田金也校長。生徒の特徴についてはこう話す。

「近隣の小中学校も小規模校が多いなか、競争の少ない環境でのんびり育ってきた素朴で素直な生徒たちです。一方、自信につながるような成功体験やリーダー経験をあまりもてなかった生徒も多く、いかに自己肯定感を高め、主体的な行動を引き出していくかが最大の課題だと感じています」

そんな実態を踏まえて、同校は現在、地域が抱える課題の解決に自ら取り組んでいくことのできる生徒の育成を目指し、自己肯定感を重視した、地域との協働による学びの推進に全校体制で取り組んでいる。「生徒は人から『違うよ』などと否定されるのが怖くて尻込みしがち。地域の大人の多様な考え方や価値観に触れることで、怖がらずに自分なりの意見を言えるようになってほしい」と3学年主任・平沢圭子先生。「自分は社会にとって必要な

人間なのだと感じられる経験をすることで、自信をもって社会に出てほしい」と進路指導主事・永井幸子先生。多くの教員が、同校生徒の育成に地域の関与の必要性を感じているという。

総合的な探究の時間から カリキュラム全体へ

観光ビジネスコースの商業科目では、2011年度に地元企業と共に地元食材を使ったチップスの商品開発に取り組んだことを機に、饅頭やゼリーなどの商品開発、その販促促進策の検討や販売などにも拡大して地域連携による学びを推進してきた。取り組んだ生徒は「お客様に感謝されたことが嬉しかった」「すごいね、がんばれ」など言ってくれ、笑ってくれた「みんなで協力できたことが嬉しい」といった前向きな感想をあげている。

そんな地域で学ぶ機会が全コースに広がったのは、17年度、総合的な学習の時間を活用した地域課題について調べるプログラムの立ち上げが始まりだ。翌18年度からは外部コーディネーターの参加により、地域におけるフィールドワークを導入したプログラムに改良した。

さらに、こうした探究的な学びを、総合的な学習(探究)の時間だけでなくカリキュラム全体で推進していくと、文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」に手を挙げた。地域で活躍できる人材に必要な資質・能力について、同校の教育方針を踏まえて「探究力・主体性・協調性」と設定(図1)。その育成のため、19年

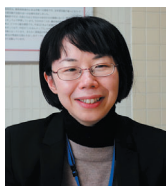


School Data

1941年設立／普通科
生徒数223人(男子127人・女子96人)
進路状況(2020年3月卒業生)
大学12人・短大4人・専門学校29人・
就職44人・その他1名
静岡県熱海市下多賀1484-22
TEL 0557-68-3291

Outline

校訓「剛毅・優雅」。1年次に小中学校段階からの学び直し授業「キャリアアップ」を導入し、個々のペースに合わせた学習を支援。2年次から「福祉コース」「観光ビジネスコース」「進学コース」に分かれる。観光ビジネスコースの商業科目では10年前から地域との協働による商品開発などに取り組んできた。令和元年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」(地域魅力化型)指定校。



3学年主任
平沢圭子先生



進路指導主事
永井幸子先生



教務主任・商業科主任
小見山秀彦先生



校長
石田金也先生

総探のほか教科や特活でも 地域連携による学びを推進

では、具体的にどのような取組を行っているのだろうか。

まず、1学年の総合的な探究の時間では、探究の基本的なスキルを身につけることを目標に「熱高ラボ」と名づけたブログラムを実施している。「お土産」「温泉」「歴史」「国際」などに関する課題について、近隣の施設や店舗でのフィールドワークから解決策を提案するという内容だ。

2学年の総合的な探究の時間の「熱高ラボ」では、特定の企業・団体の課題解決に取り組む。19年度は地元8事業所と連携して実施した。まず、各社から事業の現状や今後についてのプレゼンを聞いたうえで、興味をもった事業所にヒアリングを行い、課題を設定。企業訪問やテストマーケティング、実験などのフィールドワークを数回行い、解決策を探っていく。昨年度の例では、ホテル利用のリピーターを増やすためのポイントカードや季節イベントの実施案が出されたり、地域交流マーケットを盛り上げるための広報案が提案されたりした。

また、各教科の授業に目を向けると、理科ではジオパークと連携し、現地調査を

度には静岡県教育委員会、熱海市役所、地域の法人会や企業、市内の小中学校などを構成員としたコンソーシアムを構築し、多様な視点からの意見を取り入れながら、総合的な探究の時間をはじめ、教科の授業、特別活動、部活動などさまざまな場面で地域連携による学びを展開している(図2)。

図1 熱海高校で育成する3つの資質・能力



重ねてハザードマップを作成。家庭科では食育団体の協力のもと考案した、特産品を活かしたレシピをカレンダーとして制作し、近隣の学校や食育団体に配布するなど、多様な取組が行われてきた(図2)。

これらの実施にあたっては、教員それぞれが工夫して生徒の前向きな取組姿勢を後押ししている。

「できなかったこと・足りないことを挙げて注意するのではなく、これができるようになる」とどんな良いことがあるかを伝え、



全教員による研修を実施し、生徒の現状と必要な資質・能力などを議論。探究力・主体性・協調性の必要性を共有。

図2 地域連携により充実化が進む多様な取組

■ 総合的な探究の時間

- 1年次「熱海ラボ」：大テーマ（お土産・温泉・歴史・国際）に関連した企業や施設でのフィールドワーク
- 2年次「熱海ラボ」：事業所ヒアリング、事業所訪問、課題解決策へのアドバイスなど



フィールドワークでは地域の方の丁寧な説明に、生徒は興味深そうに耳を傾ける。



熱海ラボでは、各事業所のプレゼンを基にヒアリングを行い探究テーマの設定へ。



店頭での商品の宣伝や、新商品の試作など、体験的な活動も実施。

生徒がポジティブなイメージをもって取り組めるように心掛けています」(永井先生)

「チームでの探究活動では、一人ひとりが何かしら役割をもって活躍の機会が得られるようにし、出来栄えにかかわらず、やったことに対して『いいね』と認めることを大切にしています」(平沢先生)

地域の大人に認められた経験が自分の可能性を信じる力に

そつした地域と連携した学びのなかで、思いがけない活躍をする生徒も少なくない。

■ 授業での地域連携例

- 商業：「高校生ホテル」の企画、ツアープラン企画、商品開発
- 福祉：福祉施設実習や特別支援学級交流授業など
- 理科：ジオパークとの連携、フィールドワークによる防災提言
- 家庭科：食育団体との連携による熱海食育カレンダー作成 など



商業科の授業で、生徒考案のツアープランのチラシを街中で配布。



家庭科で市内食育団体と連携して制作した「熱海食育カレンダー」。

■ 部活動での地域連携例

- エイサー部、ボランティア部：地元施設訪問、イベントでの発表、手伝い、異校種交流
- 運動部：地元祭りへの参加
- 報道部：企業とコラボした広報誌作成

■ 特別活動での地域連携例

- ATAMI2030会議参加、子ども食堂開催
- 社会人講話



市内の商会議所と連携し、「働く」をテーマに社会人と語り合う「キャリアカフェ」を開催。

熱海ラボで、ある新商品の試作品販売を行った生徒は、抜群のコミュニケーション能力を発揮してあつという間に商品売り切り、企業の担当者から絶賛された。それが自分の可能性を信じる力になったようだ。

「事務職での就職を希望していた生徒でしたが、それ以降、幅広い職種を視野に入れるように。今後は新しいことにも挑戦していきたい、と前向きに語っています」(永井先生)

日常の授業のムードが変化していると感じる教員も多い。

「授業中は生徒の発言を『待つ』ことを心掛けていますが、うまく言葉にできないながらも自分の考えを言葉にしようという雰囲気、以前よりも強く感じられるようになりました」(平沢先生)

石田校長は、3年生が地域の大人と堂々とコミュニケーションする姿を見て、地域との関わりが生徒を大きく成長させることを実感するという。

「自己表現の場面が数多くあり、地域の方が褒めてくださる。その積み重ねによって、教室で目立たなかった生徒も少しずつ

自信をつけているのではないだろうか」(石田校長)

活躍中の大人のもつ資質・能力を分析し、評価開発に活かす

地域協働の取組の充実化の一方で、目指す資質・能力の到達度の評価開発にも取り組んでいる。19年度は、評価規準の設定に向けて3つのアプローチを行った。

まず、校内の意見を集約・共有しようとして、教員研修を開催した。「本校の強み・弱みとは」「本校生徒のもつ特徴は」「地域で活躍する人材がもつであろう資質とは」「理想と現状のギャップを埋めるには」といったテーマでグループワークを実施。同校が掲げる3つの資質・能力のなかでも、「主体性」の重要性を全体で共有した。

次に、地元企業に「社内でも評価される地域貢献にも積極的な人の特質」をヒアリング。校内研修で出た意見と同じ方向性であることを確認した。

そして、実際に熱海市で活躍している人たちと、同校生徒との意識・行動の違いについての調査にも取り組んだ。地域活性化に関する文献を10冊以上読み込んでキーマンの思考や行動の特質を抽出し、その度合いを尋ねるアンケートを作成。市議会議員、市内町内会長、商会議所職員など地域に貢献している人と、同校生徒に同じアンケートを行い、両者の結果を比較・分析した。「地元が好きだからといって必ずしも地元のために動けるわけではない」という分析結果から地域課題を自分ごと化する施策の重要性が明確になるなど、今後

図3 総合的な探究の時間・商業科目の実習の自己評価表

ダウンロード可

自己評価表・実習担当者評価表

項目	評価
1 実習開始の準備が整っている	
2 実習開始の準備が整っていない	
3 実習開始の準備が整っていない	
4 実習開始の準備が整っていない	
5 実習開始の準備が整っていない	
6 実習開始の準備が整っていない	
7 実習開始の準備が整っていない	
8 実習開始の準備が整っていない	
9 実習開始の準備が整っていない	
10 実習開始の準備が整っていない	
11 実習開始の準備が整っていない	
12 実習開始の準備が整っていない	
13 実習開始の準備が整っていない	
14 実習開始の準備が整っていない	
15 実習開始の準備が整っていない	
16 実習開始の準備が整っていない	
17 実習開始の準備が整っていない	
18 実習開始の準備が整っていない	
19 実習開始の準備が整っていない	
20 実習開始の準備が整っていない	

総合的な探究の時間で使用する自己評価シート(右)と、商業科目の実習で使用する自己評価シート(上)。探究力・主体性・協調性について、現在どのくらい身につけているかを各自チェック。

熱高ラボ・熱海ラボ「自己評価(事前)」

HRNO () 名前 ()

11月～12月より、後援の時間に行われている熱高ラボ(1年生)、熱海ラボ(2年生)において、授業(フィールドワーク)が実施されます。

熱高ラボ・熱海ラボでは、様々な活動を通して、皆さんが「探究力」「自覚性」「協調性」を身に付けることを目指しています。そのための評価として、現在の自分自身の成長を測るための、下のアンケートに答える形で自己評価をお願いします。次の項目を読んで、該当する番号に○をつけてください。

項目	1	2	3	4	5
1 現在の自分の学習態度について、授業で探究が実践されている。					
2 現在の自分の生活や学習態度について、このような生活や学習態度がある。					
3 現在の学習態度や生活態度が、授業で実践されている。					
4 現在の自分の学習態度や生活態度について、このような生活や学習態度がある。					
5 現在の自分の生活や学習態度について、このような生活や学習態度がある。					
6 現在の自分の生活や学習態度について、このような生活や学習態度がある。					
7 現在の自分の生活や学習態度について、このような生活や学習態度がある。					
8 現在の自分の生活や学習態度について、このような生活や学習態度がある。					
9 現在の自分の生活や学習態度について、このような生活や学習態度がある。					
10 現在の自分の生活や学習態度について、このような生活や学習態度がある。					
11 現在の自分の生活や学習態度について、このような生活や学習態度がある。					
12 現在の自分の生活や学習態度について、このような生活や学習態度がある。					
13 現在の自分の生活や学習態度について、このような生活や学習態度がある。					
14 現在の自分の生活や学習態度について、このような生活や学習態度がある。					
15 現在の自分の生活や学習態度について、このような生活や学習態度がある。					
16 現在の自分の生活や学習態度について、このような生活や学習態度がある。					
17 現在の自分の生活や学習態度について、このような生活や学習態度がある。					
18 現在の自分の生活や学習態度について、このような生活や学習態度がある。					
19 現在の自分の生活や学習態度について、このような生活や学習態度がある。					
20 現在の自分の生活や学習態度について、このような生活や学習態度がある。					

図4 2020年度からのシラバス

シラバスに「自ら課題設定・解決をする場面」と「教科横断的な活動をする場面」の記入欄を設置し、各科目の授業での導入を促進。

自ら課題設定・解決をする場面

Lesson3で校則について考える。既存の校則の中から一つ選び、グループディスカッションでその校則を時代の変化等に応じて変えるべきか否かを議論する。

教科横断的な活動をする場面

Lesson9で比較級・最上級を学習する。理科の授業で行う実験結果を英語で説明するポスターを作成する。

科目	単元	学習目標	評価	備考
国語	1 国語の基礎的な知識・技能を身に付ける	1 国語の基礎的な知識・技能を身に付ける		
英語	2 英語の基礎的な知識・技能を身に付ける	2 英語の基礎的な知識・技能を身に付ける		
数学	3 数学の基礎的な知識・技能を身に付ける	3 数学の基礎的な知識・技能を身に付ける		
理科	4 理科の基礎的な知識・技能を身に付ける	4 理科の基礎的な知識・技能を身に付ける		
社会	5 社会の基礎的な知識・技能を身に付ける	5 社会の基礎的な知識・技能を身に付ける		
芸術	6 芸術の基礎的な知識・技能を身に付ける	6 芸術の基礎的な知識・技能を身に付ける		
体育	7 体育の基礎的な知識・技能を身に付ける	7 体育の基礎的な知識・技能を身に付ける		
音楽	8 音楽の基礎的な知識・技能を身に付ける	8 音楽の基礎的な知識・技能を身に付ける		
外国語	9 外国語の基礎的な知識・技能を身に付ける	9 外国語の基礎的な知識・技能を身に付ける		
総合的な探究の時間	10 総合的な探究の時間の基礎的な知識・技能を身に付ける	10 総合的な探究の時間の基礎的な知識・技能を身に付ける		
商業科目	11 商業科目の基礎的な知識・技能を身に付ける	11 商業科目の基礎的な知識・技能を身に付ける		

学校全体で授業改善と教科横断を推進

また、評価開発に取り組むなかで、単発

の取組の方向性が確認できたという。こうしたアプローチを踏まえ、今年度、総合的な探究の時間、および商業・福祉の実習科目では、「探究力・主体性・協調性」の3つの資質・能力について試験的に作成したルーブリックに基づき、自己評価シートを導入(図3)。取組の前と後に生徒が自己評価を行うことで、取組による変化を見ていく。今後は、各教科の授業においても、資質・能力のルーブリック評価の導入を検討していく計画だ。

の取組を増やすのではなく、地域課題を軸に教科の学びを有機的に結びつけ、カリキュラム全体で目指す資質・能力を育んでいく必要性が見えてきたという。

その第一歩として、すべての授業において課題解決的な視点による学びを取り入れることを目指し、今年度からシラバスに「自ら課題設定・解決をする場面」の欄を設置(図4)。各教科・科目で教材や発問の工夫が進められている。

そして、幅広い分野の視点や知識を活用して課題解決に取り組めるよう、教科横断的な学びへの挑戦も始まった。シラバスに「教科横断的な活動をする場面」の欄を設けたほか(図4)、各教科から「他の教

Interview

人と関わる楽しさを学んだ

中学時代、ただ自分ががんばればうまくいくという思いで、あまり人と関わらずに過ごしていました。でも、卓球部の最後の試合で良い結果を残せなかったとき、「一人でやることには限界があるのかも?」と。そこで高校では、人ともっと積極的に関わろうとしてきました。チームで取り組む熱高ラボ・熱海ラボでは、みんなの意見を取り入れることを大切に、まとも役として動けたと思います。また、引き続き卓球部に入ったのですが、仲間とアドバイスし合いながら練習を重ねた結果、県大会にまで出場することができました。人と関わるとこんなに楽しく、良いことがある。熱海高校で学んだことのひとつです。



3年生(進学コース)
北原 大希さん

自分の強みを発揮し、頼られる存在に

熱高ラボ・熱海ラボの探究活動、福祉コースの実習、エイサー部の介護施設や地域イベントでの演奏など地域で活動する機会が多く、幅広い方々とのコミュニケーションを学ぶことができました。熱海ラボで障がい者就労支援施設の課題に取り組んだときは、そうした経験を基に積極的に発言・行動することができ、友達から「渡辺君ならそこどうする?」と頼られるように。気づいたら、チームの中心にいました。中学までは人と話すのが苦手だったので、違う人になっように感じます。卒業後は県内の農業協同組合で働く予定です。何か仕事が発生したとき「渡辺君に頼みたい」とすぐ名前が挙がるような存在になれるよう、がんばっていきたいと思います。



3年生(福祉コース)
渡辺 心介さん

総探を軸に教科間がつながる新しいカリキュラムを構想中

次のステップに見据えるのは、22年度入学生からの新カリキュラムの設計だ。生徒がそれぞれの興味・関心のある分野を軸に学びを深めることができるよう、現在1・2学年の総合的な探究の時間で実施している地域課題探究を、3年間のプログラムに拡大し、各教科と総合的な探究の時間の

学びを関連づけた、コース制よりも自由度の高いカリキュラムを構想している。教務主任の小見山秀彦先生はこう展望を語る。「各教科・科目で身につけた視点や知識を結集させ、総合的な探究の時間で地域課題解決に深く取り組むことで、生徒の資質・能力を効果的に育んでいきたいと考えています。そのような学びを推進していくには、我々教員は教科書の内容だけでなく、発想から抜け出すことも必要。それぞれの個性を活かして、生徒に刺激を与えられる存在でありたいと思います」(小見山先生)

今後も、地域連携と教科横断的授業を柱に、生徒の資質・能力の育成に丁寧に取り組んでいく方針で、一歩ずつ前進を続けていくという。